

児童発達支援自己評価表

公表:2022年度

事業所名:児童発達支援センターぷれっじ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点/課題点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	4	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応ができる部屋、スペースが限られている ・勤の活動では、やや狭く感じグループ分けをすることがある ・子どもの発達段階に合わせたクラス分けを行っている ・広いスペースがあるといい、部屋数が少ない ・活動を分けて少人数で行うなど ・体を動かす部屋が大きいと運動にいいと思う
	2	職員の配置数は適切である	5	6	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対して適切な配置ではないと感じるため、送迎や休憩を改善したほうがよいのではないかとと思う。 ・産休、育休職員不在の時は、期間限定などでもいいので職員を採用するのはどうか ・欠勤等で職員が足りない時にはフォローに入るなど調整をしている ・常にギリギリと感じる。支援を充実させるために増員できたらと思う ・1人ひとりの計画に基づいた支援を行うための関わりや時間をとることが難しい ・職員間で話し合う適正人数になっています
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個人マークを取り入れたり、スケジュールボードには、1日の流れを写真で提示したりと目で見て分かりやすい形としている ・窓などの淵は、怪我防止のためクッションカバー等を付けている ・努力するべき点はあるが、概ねできちんとしていると思う。改善するための時間が必要 ・情報伝達の個別に使う写真カードの制作が出来ていない
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良で隔離するべき時に、職員トイレ片方専用にしたたり工夫できているが、本来ならば保健室のようなゆっくり休める場所が必要なのではないか ・部屋数が少ない ・努力するべき点はあるが、概ねできていると思う。改善するための時間が必要 ・クラス内に見えにくい場所があり、出ている壁にぶつかることがある ・毎日、子どもが降園後の掃除、定期的にクラス内の掃除環境の整理も行う
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・話す人が決まっているため、紙に書いて提出していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間等で職員同士で共有し考える時間を設けている。 ・面談後、クラスで共有、相談をしている
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外部とのかかわりが少なく感じるため、市などの支援者支援を利用してはどうか ・年に1度、HPで公表している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の方の介入は少ない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士のコミュニケーションをとるためにも意見交換の場もつくっている ・研修への参加は少ない ・年に数回行っている。外部講師を招いて研修を行う
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見も尊重したうえで、子どもの発達段階に応じて、現時点で必要なもの、達成出来そうな目標を決めている ・各クラス会議でモニタリングを行っている。保護者のニーズに関しては、その都度、相談するようにしている
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	3	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11	1	

13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・設定が必要な目標については、クラスの状況により実施できないことがある ・毎日、振り返りをする。ときどき記録がない時がある。 ・出来ない日が続くこともある。 ・計画に合わせての日々の実施などが難しい日がある ・振り返りで話し合いを行っている ・記録を書く際に分かりやすいように、計画を記入している
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が決めているが、必要な時にはクラスで変更を行うことがある ・活動は担任が決め、詳細はクラスで進めている ・月案会議の前にクラスで会議を行い、月案の目的などを話し合う
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	3	<ul style="list-style-type: none"> ・表記は同じだが、アプローチを変化させていることもある ・常にではないが、飽きないように考えている
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスをグループに分けて活動するなど、集団と個別の場面に合わせた支援を行っている
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	5	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎など直接の確認が行えない場合、1日のクラス体制や活動内容など統一した書面にて最低限確認を行っている ・支援中に声を掛け合って決めることが多い ・共有するためのファイルを活用している ・書面での共有はしているが話し合いとしてはできていない ・クラスごとの今日の動きに記載している
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11		<ul style="list-style-type: none"> ・長期お休みした際も、振り返りのファイルを見ると、多少把握ができるので助かる ・困り感を書く欄を作り共有している
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しの必要性までは話し合っていない

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	・保育所との共有や医療機関に付き添いを行った
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2	・毎月1回、専門職がクラスに入る
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	1	・訪問などを通して本人の様子などの共有を行っている ・保護者の依頼があった時に行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	1	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	4	・コロナ禍ということもあり、外部とのつながりは薄い
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10	1	・久しぶりの交流保育で保育に行っていない子も関わることができ良かった ・保育園と交流保育を行い、ふれあいの機会を設けている ・交流保育を実施している ・週1回交流保育を行う。現状では固定された児童になっている
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	5	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	2	・連絡帳や電話などを通して様子の共有を行っている ・連絡帳の記入は行っているが、共通とはなっていない。ふれっじで来てもらう日を決める
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	4		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	2	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11		
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	1	・相談の電話が保護者から少ないため、そもそもの申し入れの体制を見直してもいいと思う ・職員同士で共有し考える場面をつくることもある
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	12		・必ず事業所内から持ち出さないようにしている
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	2	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	3	・コロナ禍で中々できないが、法人のイベントであるいんくるフェスティバルを今年を行うことが出来た ・コロナのため、開催できず

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	1	・より具体的に避難が必要な場合の対応策など検討する必要がある
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11	1	・保護者から何かあれば共有を行うようにしている
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12		・日々の振り返りで、原因、対策を共有し事例集のみならず記録することで普段から目にする機会がある
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	1	・職員間で意見交換を行うと同時にコミュニケーションをとる時間を設けている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	3	・事前にクールダウンなども共有し取り入れていないところがある ・その日に状況を伝えて説明する